

News Letter いき・がく

Bunkyo Center for Education and Research

2020 February No.004



教育研究推進センター長・ご挨拶

このたび、教育研究推進センターニュースレター第4号を発行するにあたり、教育研究推進センター長としてご挨拶申し上げます。

「いき・がく（域・学）」は、本学教員による地域連携活動を支援すべく、発行いたしました。前センター長である椎野信雄先生の第1号におけるご挨拶にありました様に、ニュースレターの愛称とした「いき・がく（域・学）」は、総務省の地域づくり活動で「域学連携」という用語が用いられています。今年度は、人間科学部心理学科の秋山美栄子先生に「高齢者と学生の世代間交流について」というタイトルで、健康栄養学部管理栄養学科の渡邊美樹先生に「地域活動としての食育推進事業を通して考えること」というタイトルでご執筆いただきました。どちらも越谷および湘南キャンパスで実施されている地域連携事業でございます。ご精読いただきますようお願い申し上げます。

教育研究推進センターでは、昨年度に引き続き、科学研究費補助金（科研費）等外部研究費獲得の推進とそのためサポート体制の充実に努めました。今年度は、越谷、湘南両キャンパスをテレビ会議システムで繋いで、今年度の科研費が採択された人間科学部の浅野正先生に申請書執筆に関するレクチャーを行っていただきました。今年度は残念ながら科学研究費研究計画調書ピア・レビューは行えませんが、総計で37件の申請がありました。この科研



教育研究推進センター長

中島
滋

費獲得のための事業は次年度も行いたいと考えております。科学研究費の取得に関しては、申請数100件、採択率50%を目指したいと考えております。

外部研究費の取得に関しては、「文教大学と外部機関との共同研究及び受託研究規程」を制定し、本学としての受け入れに関する手順を定めました。この規程が制定されることにより、本学の教員が外部研究費を取得しやすくなることや、迅速な経費の執行が期待されます。

さらに、Faculty Development (FD)・Staff Development (SD) 活動の推進として、両キャンパスを遠隔授業システムでつなぎ、研修会（改めて考える、これからの大学に求められるFD・SD）を行いました。これらの研修会は年々参加者が増加しており、本学において、FD・SD活動が定着してきました。この活動においては、両キャンパスの教育研究推進センター次長（豊口先生、日吉先生）の地道な努力が実を結んできた実感しております。

最後になりましたが、今後も教育研究推進センターの活動にご理解とご援助をいただきますようお願い申し上げます。私の拙い挨拶とさせていただきます。

高齢者と学生の世代間交流について

人間科学部 秋山 美栄子

高齢社会の真只中、地域連携、地域包括ケアなどコミュニティにおける課題が山積している。私は高齢者ケアを研究しているが、大学生と高齢者との世代間ギャップが年々拡大しているように感じている。そもそも、高齢者との交流がなく祖父母との交流も年に1-2回程度という学生も多い。そこで、高齢者を理解するためにまずは大学周辺の高齢者との交流企画をゼミ学生と検討した。その7年間の活動を紹介します。

2017年からは春・秋2回開催で現在まで継続して毎回30名前後の参加者を得、健康クラブと合算すると通算15回の開催となり、内容も追加されて楽器演奏、カラオケ、落語、ダンスなど多岐にわたっている。

コミュニティカフェ OPEN

日時 平成29年12月5日(火)
14時30分~15時50分

会場 文教大学 12号館12201
正門に案内係がおります!

対象 60歳以上の方

内容 体を動かすゲーム・脳トレ
大内明氏による講話

担当 文教大学人間科学部
秋山美栄子ゼミ

今回は
ゲストスピーカーとして、
大内明氏を
お招きしております!
ご参加お待ちしております!

文教大学までの地図に必ず
目印をつけてもらってください!

地域交流企画について

初回は、文教健康クラブと名付け、2013年7月にストレッチやリズム体操を中心とした運動機能向上とクイズやゲームなど脳トレの認知症予防を柱として開催した。同年の秋学期9月-12月にかけて毎月1回のペースで回想法(心理療法)を企画運営した。

2014年は7月にストレッチ体操と脳トレ

第2回文教健康クラブ
～昔の思い出を未来に生かそう～
開催のお知らせ

今年度より、文教大学の社会福祉・地域交流を学ぶ学生が地域の方との交流を目的に、関わりあいの場を企画しています。健康づくりやご近所の方や学生との交流に、お誘い合わせの上ぜひご参加ください。

＜日程＞ 終了時刻は多少前後する場合があります。
悪天候の場合中止もあります。

【時間】 14:40～16:00 ※受付開始 14:30～
9月17日(火) どちらか一方にご参加ください
10月1日(火) 今後の流れや内容について
ご説明させていただきます。

第1回 10月15日(火)
第2回 11月12日(火)
第3回 12月10日(火)

ごことに設けられたテーマについてみなさんと学生が語りあながら今後の生活に生かしていくような場です。

対象者 ・60歳以上で軽い運動が可能の方(歩行等)
・第1回から第3回まで全てに参加可能な方
※昔の思い出をお話する場面があることを
ご了承ください。

集合場所 文教大学12号館1階ロビー
持ち物 飲み物/出席簿(第1回にお渡しします) ※費用無料
窓口 文教大学12号館4階準備室
担当 文教大学人間科学部 秋山美栄子ゼミ
申し込み締め切り: 9月1日(日)
申し込み方法: 別紙ファックスで
文教大学人間科学部12号館窓口へ(指導教員:秋山美栄子・萩原裕子)
※お問い合わせもファックスでお願いいたします。

第3回文教健康クラブ
～脳トレ&うちわで作る地域の輪～
開催のお知らせ

昨年度より、文教大学の社会福祉・地域交流を学ぶ学生が地域の方との交流を目的に、関わりあいの場を企画しています。ご近所の方や学生との交流に、お誘い合わせの上ぜひご参加ください。

＜日程＞ 終了時刻は多少前後する場合があります。
台風などの場合中止もあります。

7月1日(火) 15:00～16:20
※受付開始 14:45～

Aコース
暑い夏を少しでも涼しく過ごすために!
和紙を使ったうちわ絵で、自分だけのオリジナルうちわを作ります

Bコース
脳トレで認知症予防!脳トレで頭も心も健やかに!
活動後は茶話会を予定しています

対象者 60歳以上の方
集合場所 文教大学12号館1階ロビー
窓口 文教大学12号館4階準備室
担当 文教大学人間科学部 秋山美栄子ゼミ
申し込み締め切り: 6月17日(火)
申し込み方法: 別紙ファックスで
文教大学12号館4階準備室へ
※申し込み多数の場合はお断りさせていただきます。ご了承ください。
※お問い合わせもファックスでお願いいたします。

レのコース、手芸等制作の希望を取り入れてちぎり絵コースの2コースで開催した。参加者からのリクエストが多かったため、秋学期10月にも同2コースを開催した。

2016年秋学期から名称を変更してコミュニティ・カフェとして、体操指導者が参加して越谷市の「はっぴちゃん体操」やストレッチ、脳トレ、手芸を中心に展開している。

成果と展望

初期には越谷市、春日部市、草加市、東京都等、広範囲の地域から参加者があったが、最近は越谷市、草加市、大学近隣からの参加者が多くなってきた。また、継続して毎回楽しみに参加してくれる顔馴染みの参加者も増えた。近隣の参加者とは通学時に挨拶を交わしたり、地域の情報交換や行事に誘われたり、大学祭に来てくれるなど相互に地域交流を活発にするなどの成果がみられる。ゼミ学生も3年次には高齢者とのコミュニケーションに戸惑っているが、4年次になると自然体でコミュニケーションをとり、おもてなしができるように成長する。企画はゼミ学生を中心に行うが、連携している越谷市のシルバーボランティア団体、越谷市社会福祉協議会、地域の自治会などの協力も得ており、卒業研究のテーマや調査(含む教員の研究)などの縁に繋がることも多く、参加している高齢者と学生のエンパワメントに役立っている。

また、高齢者領域で社会問題ともなっている認知症について、学生にも興味関心を持ってもらうために、目黒のDカフェへ訪問して、実際に認知症の当事者と家族に関わり、その知識や技術を学ぶ試みも続いており、目黒のDカフェネットには大変お世話になっている。引き続き、様々な工夫をしつつ継続していきたい。



地域活動としての 食育推進事業を通して考えること

健康栄養学部 渡邊 美樹

筆者は、大学と地域自治体が連携して行っている食育事業や自身が所属する団体（NPO法人）が企画する地域活動に参加しています。今回は、筆者が2006年から会員となっている湘南栄養指導センターの主な活動内容と、今後の活動に向けての課題や展望について考えたことを紹介します。

「食育講座」と「食育クイズ」が人気です。今年12月が第50回です。



- 4) 栄養指導（配食弁当献立指導 他、個別指導）筆者は現在、障がい者研修保養施設のレストランメニューへの助言（食形態やアレルギー対応等）や食に関する研修会講師の派遣等を担当しています。
- 5) 平成30～31年度藤沢市まちづくりパートナーシップ事業受託 公認スポーツ栄養士（管理栄養士）がジュニアスポーツ栄養講座を定期的で開催。対象はスポーツ栄養に興味のある中学生以上の方。
- 6) その他
離乳食サロン、軽運動教室、公民館等講師派遣、地域の各種イベントへのブース出展、貸しスペースなど。

特定非営利活動法人（NPO） 湘南栄養指導センターとは

藤沢市鶴沼在住の栄養学者 高木和男氏（1909～2004）が、地域での栄養士の活動の拠点として、1999年に私財を当てて高木和平記念館をつくりました。この記念館を拠点として2000年11月にNPO法人として「湘南栄養指導センター」が発足しました。現在の正会員は129名です。

主に地域住民の方々への健康・保健・福祉の増進を目的とし、講演会、各種教室、講師派遣などの事業を行っています。

主な事業内容

- 1) 講演会（年に2～3回、食と健康に関するテーマで開催）テーマに関連したお茶菓子や食品の試食をすることもあります。昨年5月には、本学健康栄養学部教授の井上節子先生がタマネギ外皮の抗酸化作用について講演会を実施しました。この時は、井上ゼミの学生が考案した「タマネギ外皮入りマフィン」を会員が調理・提供し、参加者全員で紅茶とともに楽しみました。



- 2) 男の料理教室「シニアの楽しい昼食づくり」（奇数月2日間開催）毎回好評でリピーターの多い事業です。令和2年1月に第170回を迎えます。
- 3) 子ども料理教室（年3回開催）小学生対象。子ども達が分担・協力しておいしい料理を作ります。試食時の



今後の課題と展望

食育基本法（平成17年～）に基づき平成18年に作成が開始された食育推進基本計画も、第3次（平成28年度～令和2年度）を迎えました。多様な暮らしへの対応、幅広い世代への食育、食文化の継承や食の循環・環境への意識など、食育の必要性や範囲が広がっています。湘南栄養指導センターへの依頼も増加し、期待の大きさを実感する一方で、対応できるスタッフが限られていること、若手の会員の勧誘や育成の時間がなかなかとれないことなどの問題点を感じています。今後は、健康栄養学部の学生や卒業生（短大の卒業生も含む）に参加を呼び掛け、地域活動の実際に触れてもらうと同時に、地域活動の活発化・安定化に繋がりたいと思います。また、大学に足を運んでくださる地域住民の皆様にも地域活動の情報を発信できるようにしていきたいと考えています。

研修会参加者の声

FD・SD研修会「改めて考える、これからの大学に求められるFD・SD」に参加して

文学部 樋口 泰裕

告白すると、いまだに“FD”なり“SD”などと言った、横文字省略系の言葉を口にするのは気恥ずかしい。単なる用語の問題という訳ではなく、事はもう少し深いところにあると考えているのだけれど、なんにせよ、そうした気恥ずかしさが、取り組みに対して気後れさせるといふか、今風に言えば、主体的に向き合えない要因の一つになっている。また、“FD”にしろ“SD”にしろ、求められるのは組織としての取り組みであるが、そうして描かれる具体的な取り組みと私が日々教室で実感している個の思いとが、どうにも噛み合わないのも、いまひとつ“FD”“SD”なるものに、我が事として向き合えない要因の一つになっている。個が為すべき事と組織として為すべき事を同等に語るのは間違っているとしても、文字通り、身を粉にして日々教育に向きあわれているたくさんの同僚教職員を思うと、その「粉」を出来る限り多く掬えるような取り組みになれば良いと願っている。以上、もの分かりの悪い私ではありますが、もちろんこのような研修会を通して少しずつ蒙が啓かれているところもあります。最後になりますが、いつもこのような研修会を企画、運営くださる教職員の皆様に心より感謝申し上げます。次第です。



情報学部 大橋 洸太郎

3名の話者による講演はそれぞれ、FD・SDとはどのようなものか、文教大学におけるFDと他大学での取組の現状、そしてIRとは何かについてを取り上げたもので、明瞭な役割分担の下、私にとってFD・SDに関する基本事項から現状と課題までを把握することができる良い機会となりました。聴講させて頂いたことで、Staff Development (SD)は職員だけでなく教員も対象に含まれている広い概念でありながらもその住み分けが存在すること、教員が現在行っている個々の職能開発の取組自体がFaculty Development (FD)として扱われて良く、これを学科や学部単位でまとめることで学校の取組として世に理解させることができること、

Institutional Research (IR)の中では、特に教員の視点として学生の成長を目標に教育に関する学内データの収集・分析を行うと効果的であることについて理解できました。自身の教員像について改めて見つめ直す機会を下さりありがとうございました。

日本私立大学連盟「大学教員の職能開発とFD」に参加して

文学部 荒井 智子

新任専任教員を対象とした「FD推進ワークショップ」が8月上旬、浜松で開催された。

大学も専門分野も異なる教員がグループに分かれ、ファシリテーターを中心に話し合いをしたり、模擬授業をして意見交換を行ったりするなど、一泊二日の濃い時間を過ごした。私は4月から大学で卒業研究というゼミ形式の授業を担当するようになり、素直で礼儀正しく協調性がある学生たちに出会えたことを嬉しく感じる一方で、考え方が独りよがりであっても自己完結してしまう（させてしまう）話し合いや、空気を読んで批判的な意見を言わない雰囲気、何か解決策はないものかと考えていた。このワークショップを通し、自己の指導方法を見直して学生に役割分担をさせたり話し合いのプロセスを可視化するなどのヒントを得た。「他者から学ぶことの大切さ」を体験的に実感できた。

情報学部 櫻井 淳

2019年8月6～7日に、日本私立大学連盟主催の「大学教員の職能開発とFD」に参加した。ここでは、全国約50名の新任専任教員が集まり、日頃抱えている問題や解決策などの討議や、各参加者の模擬授業に対する意見交換が行われた。多種多様な分野の教員と接したことは新鮮な機会となり、ペアワークの組み方、学生への問いかけ方や、リアルタイムアンケートなどのICTの活用方法など、学生の興味を引かせるためのアイデアを多く得られた。また、私自身の授業に対して、視覚的資料を取り入れた授業が効果的なことを再認識できた一方で、演習課題の出し方などの改善点も見つかり、今後の授業改善の参考となった。そして何よりも、若手の教員同士の熱意のこもった議論は非常に刺激を受けたため、この経験を糧に、創意工夫を凝らしFD向上に向けて研鑽していきたい。